



ハンカチ試作品作り



一つ一つ丁寧に磨かれた
(木の花桜釉箸置)

◆三代教主三十年祭記念品製作

真心込めて丁寧に

9月23日、綾部市梅松苑の長生殿・老松殿で、三代教主三十年祭が執り行われた。本祭典は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため参拝自粛が要請され、本部関係者のみで執行。お供えの玉串に対し記念品として、三代さま絵柄ハンカチ（藍染め）と木の花桜釉箸置が下付される。記念品作製には大本愛善学苑生をはじめ本部奉仕者が携わり、現在も作業が進められている。



箸置の底面に「つる山」の印を入れた後、焼成する



作陶用の土を取り分け、一つずつ成形していく



箸置の窯出し



箱詰め作業



紙やすりで磨き完成



成形された物に指で溝を付け整えていく

つるやま窯木の花桜袖箸置

鶴山みろく村の窯芸道場では、木の花桜袖を使用した箸置作りが行われた。

三代さま絵柄ハンカチ（藍染め）

ハンカチ作りは2度の試作を経て、両聖地の職員が手分けして現在作製を進めている。



決まった図柄に染まるようハンカチを絞る

最後にもう一度水洗い



絞ったハンカチをお湯に漬ける



染色液に漬けた後、水洗い



酸化剤に浸し発色させる



染められたハンカチ（試作品）を乾燥させる



箸置（完成品）



焼成された箸置